

SAVE THE EARTH!

地球を救え!

100 QUEST

100のクエスト



将来世代が考える気候アクション

NEXT GENERATION'S ACTION



Episode 2 DAY 1 REPORT

CONTENTS

開催の目的／DAY1 SNAPSHOT／
プログラム／情報提供・グループ
ワーク・フィールドワークの様子

開催の目的

気候変動はその影響の大半を、将来を担う若者世代が受ける、世界規模の問題です。

だからこそ、「今」の若者の視点や考えをもとに、気候変動の対策を加速させるとともに、「個人」の取組だけではなく「社会全体」を変えていくことがとても重要です。世界では、若者のムーブメントが地域や国を動かすきっかけとなっており、脱炭素社会の実現には欠かせない重要な存在です。

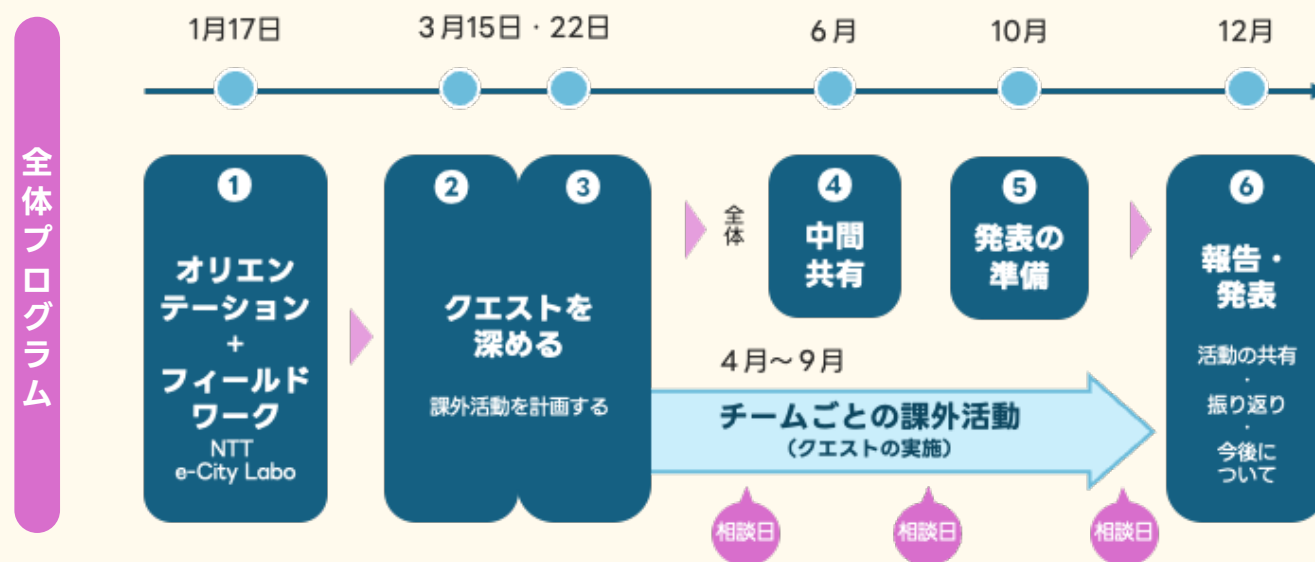
気候YOUTH会議：Episode 2は、2025年に開催したEpisode 1に引き続き、若者の活動を自治体が応援することを目的に、府中市・日野市・稲城市・調布市の思いのある**若者同士が学び、考え、行動する「場」**として開催します。



Episode 2 は アクション していく1年！

MEMBER DATA

高校生 15名
大学生 6名
計 21名
*欠席者含む



気候YOUTH会議 Episode 2

DAY 1 SNAPSHOT

2026.01.17 SAT @NTT e-City Labo

情報提供



グループワーク



フィールドワーク



DAY 1のプログラム

1/17 SAT オリエンテーション + フィールドワーク

13:00~16:30 @ NTT e-City Labo

- 気候YOUTH会議の目的と進め方 + チェックイン：かんたん自己紹介！（15分）
- 情報提供：「海の中の気候危機」（45分）
講師：ダイビングガイド・自然保護活動家 **長谷川 潤 氏**
- グループワーク：お互いを知ろう！（35分）
- 休憩（10分）
- フィールドワーク：技術やアイデアの「掛け算」に触れてみよう（90分）
- チェックアウト：振り返り（15分）
- 終了

情報提供：「海の中の気候危機」



講師

ダイビングガイド・自然保護活動家 長谷川 潤 氏

国内の海の現状を目の当たりにしているダイビングガイドの長谷川さんに、気候変動による海への影響について、実体験を交えながらお話いただきました。

また、なぜ気候変動が起きているのかの科学的なメカニズムから、気候変動対策の種類と世界での対策が進まない社会的な背景まで、ご説明いただきました。

PROFILE：素潜りを中心としたダイビングガイドであり、海の魅力と環境問題を発信する自然保護活動家。小笠原での初ダイビングをきっかけに海に魅了され、1992年よりスキューバ・スキンドビングを開始。約30年にわたり豊富な海洋経験を積んできた。近年は主に伊豆半島や伊豆諸島、積丹半島、沖縄の大浦湾（辺野古）などをフィールドとして、サンゴの白化現象や磯焼け、開発による環境破壊に関する発信に注力している。



CHECK! 主な学び

海の中の変化は著しく進んでいる

気候変動の影響により、日本の海でも「サンゴの白化現象」や「磯焼け（海藻が消失し海の「砂漠化が進むこと）」が急激に進んでいる。

気候変動対策が進まないのは 科学の問題ではなく、人間社会の 構造や人間の心理に根ざした問題

「原因」と「被害」の空間的・時間的ズレがあること、危機を実感しにくいこと、対策の成果が見えにくいことから、優先順位が低くされがち。

「目的」を意識することが大事

気候危機のような困難な問題については、いきなり最終的な解決に直結するようなプランを立てるのは難しい。それでも、やるべきと思ったらひるまずチャレンジ！ただし、闇雲に取り組むのではなく、「今やっていることが何に繋がるのか？」を明確に意識することが大事。

「好きから始める」ことが大切

「自分には何もできない」と思わず、まずはそれを自分が得意な方法で人に伝えることから始めてみては。

グループワーク： お互いを知ろう！

席替えをしながら、2つのテーマについて、いろいろな人と話し合いました！

1周目

自分が一番キラキラ輝いている瞬間は？
(10分)

2周目

今年、気候YOUTH会議でやってみたいことは？ (15分)



フィールドワーク： 技術やアイデアの 「掛け算」に触れてみよう

一部を
ご紹介！

調布市にあるNTT e-City Laboの施設を見学しました。以前はNTT職員の研修施設でしたが、コロナ以降は、NTTグループのネットワークの技術を活かしたさまざまな取組に触れられる場として展開されています。

今回は、気候変動対策に関わる技術にとどまらず、幅広い分野の最先端の技術についてご紹介いただき、情報通信技術（ICT）とさまざまなテーマの掛け合わせによって、社会課題の解決や新しい価値の創造につながることを学びました。



ICT×農業 ICT都市型農園：ビルの屋上など、都市部特有の空いている空間を活用した、都市型の農園。アプリで手入れできる人を管理できたり、土の状態を把握できたり、農業の初心者でも都市部でさまざまな人が関われる仕組みとして試行されています。



ICT×エネルギー×資源循環 超小型バイオガスプラント：生ゴミなどの廃棄物を再生可能エネルギーと液体肥料に変えて、資源循環をめざすもの。ICT技術を使って、発酵の温度が50℃に保たれている。食品加工工場などで導入されており、廃棄したら燃やされてしまう食品残渣をエネルギー源として利活用することで、消費エネルギーだけでなく経費の削減にもつながっている。

気候YOUTH会議 Episode 2

BY 府中市・日野市・稲城市・調布市

府中市 生活環境部
環境政策課

TEL : 042-335-4196

日野市 環境共生部
環境政策課

TEL : 042-514-8294

稲城市 都市環境整備部
緑と環境課

TEL : 042-378-2111

調布市 環境部
環境政策課

TEL : 042-481-7086